

男女が共に輝くために

－進めよう男女共同参画－

人間には男性と女性が存在します。そして、それぞれには個性と能力があります。性の違いにとらわれず、一人一人の特長を生かすことができれば、八幡平市はもっと輝くまちになるはず。まずは、男女共同参画について考えてみませんか。そして、夫婦から、家庭から、この取り組みを始めてみませんか。



理想を知る

男女共同参画。この言葉が最近私たちの耳によく入ってくるようになりました。男女共同参画とはどのような理念なのでしょう。

なぜ「参加」でなく「参画」

「参加」は決まったことに加わること、「参画」は物事の決定に計画の段階から加わることを意味します。これまでは、男性が中心だった社会の仕組みをつくる場に、女性に加わり、対等な立場で意見を出し合うことで、男女の意見が反映されるだけではなく、今までと違った視点や新しい発想などが生まれてきます。

男女共同参画社会の実現

こうした取り組みを推進する上で重要なのが「男女共同参画社会の実現」。国では、男女共同参画社会の実現を21世紀のわが国の最重要課題の一つと位置付けています。男女共同参画社会の具体的なイメージは、①職場に活気、▽女性の参画で経済活動の創造性が増え、生産性が向上▽男女が共に働きやすい環境が確保され、個人が能力を最大限に発揮②家庭生活の充実、▽お互いが尊重し合い、協力し合い、家族の連携が強化▽仕事と家庭の両立支援環境が

「男女共同参画」とは何か
日本国憲法で個人の尊重と法の下の平等がうたわれてから、法律や制度上では男女平等の実現に向けた取り組みが進められてきました。しかし、人々の意識や習慣の中には、「男性は仕事に生きるべき」「女性は家庭に入るのが普通」などの長い年月の中で定着した男女の役割に対する固定的な考え方が存在しています。

男女共同参画とは、「男性だからこう」「女性だからこう」という固定観念にとらわれず、人間として平等に扱われるべきであるという考え方です。性別の違いによって、個人の生き方や考え方が限定されることがあってはいけません。

男女共同参画社会基本法 (1999年制定)

第2条（抜粋）
男女共同参画社会の形成
男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること

INTERVIEW

男女共同参画の視点で進めるまちづくり

男女共同参画という考え方は、女性の社会進出の増加や働き方の変化（共働き世帯の増加）、家族の生活スタイルの変化（核家族の増加）、少子高齢化など社会情勢の変化によって生まれてきました。

人権を尊重し、それぞれの責任を分かち合う。これは協働のまちづくりにつながるものと考えます。

これから市が発展していくには、まちづくりの中に男女共同参画の視点を入れていくことが必要になると思います。



岩手県立大学総合政策学部

吉野英岐 教授

●よしの・ひでき 昭和35年東京都生まれ。慶応義塾大学大学院修了。平成10年4月から岩手県立大学総合政策学部助教授。18年4月より同教授。20・21年度は同大学の公募型地域課題研究として、市と男女共同参画計画策定に携わる。49歳。



男女共同参画

男女共同参画シンボルマーク

平成21年内閣府男女共同参画局が選定。男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いが込められている。

八幡平市男女共同参画計画とは

八幡平市で男女共同参画社会を実現するための施策を推進する計画。

■計画の期間

平成22年度から27年度まで

■基本理念

「男女ひとりひとりが互いに認め合い、ともに個性や能力を高め合い、協働のもと、いきいきと暮らす八幡平市の実現」

■基本目標

I 男女ひとりひとりがお互いを尊重する意識づくり

II 家庭内における暴力の根絶

III 男女ひとりひとりが安心して暮らせる社会の支援

IV 男女ひとりひとりが支え合い充実した家庭生活と社会生活

V 男女ひとりひとりが個性と能力を発揮できる協働参画のまちづくり

■計画の推進

市役所内の推進組織や、市民らで構成する「八幡平市男女共同参画推進会議」（仮称）を設置し、計画の進ちよく状況の把握や進行管理を行う。

また、計画を推進する上で、27年度までに次のような数値目標を掲げている。

◆主な指標（一部）

▷市内事業所の男性職員の育児休業取得率を10％に（20年度は0％）

▷審議会などの女性委員の比率を30％に（20年度は18％）

▷保育付き事業の割合を10％に（これまで行われていない）



夫（男性）がすべきこと

家事や育児、介護などは妻の仕事とっていいないでしょうか。早く帰る日や休日などは積極的に分担していきましよう。妻が家庭でいくら働いてもお金をもらうことはできません

夫婦で始める

夫婦（家庭）から男女共同参画を進めるためにできること一。男女共同参画計画を策定し、男女共同参画社会の実現へ動き始めた市のあるべき姿とは。

妻（女性）がすべきこと

外で働いて家族を養うのは夫の役目と思っていないでしょうか。夫も過度に期待をかけられることで、不自由を感じる場合もあります。それぞれの家庭にはそれぞれの形があります。疲れた夫をいたわり、専業主婦として家事などに専念することも、結婚や出産後に働くことも素晴らしい生き方です。大事なものは、それだけが選んだ生き方を尊重して分かち合うことです。

夫婦（家庭）は男女共同参画を進める上で、最小の単位。お互いを理

男女「協働」参画のまちへ

市は、3月に「八幡平市男女共同参画計画」を策定しました。八幡平市も男女共同参画社会の実現へ動き始めています。

八幡平市の人口は5月31日現在、2万9482人。そのうち1万5220人と半数以上が女性です。女性の活躍が市の発展にプラスになることは間違いありません。

「男女共同参画」は「男女協働参画」と読み変えてみれば良いと思います。男性と女性が力を合わせて物事の決定に加わること。それは幸せな家庭はもちろん、まちづくりへの第一歩につながるのではないでしようか。

特集 男女が共に輝くために 終わり

現状に気付く

男女共同参画の現状—中でも夫婦（家庭）の現状について、市で行ったアンケート調査の結果などから見えてきた課題があります。

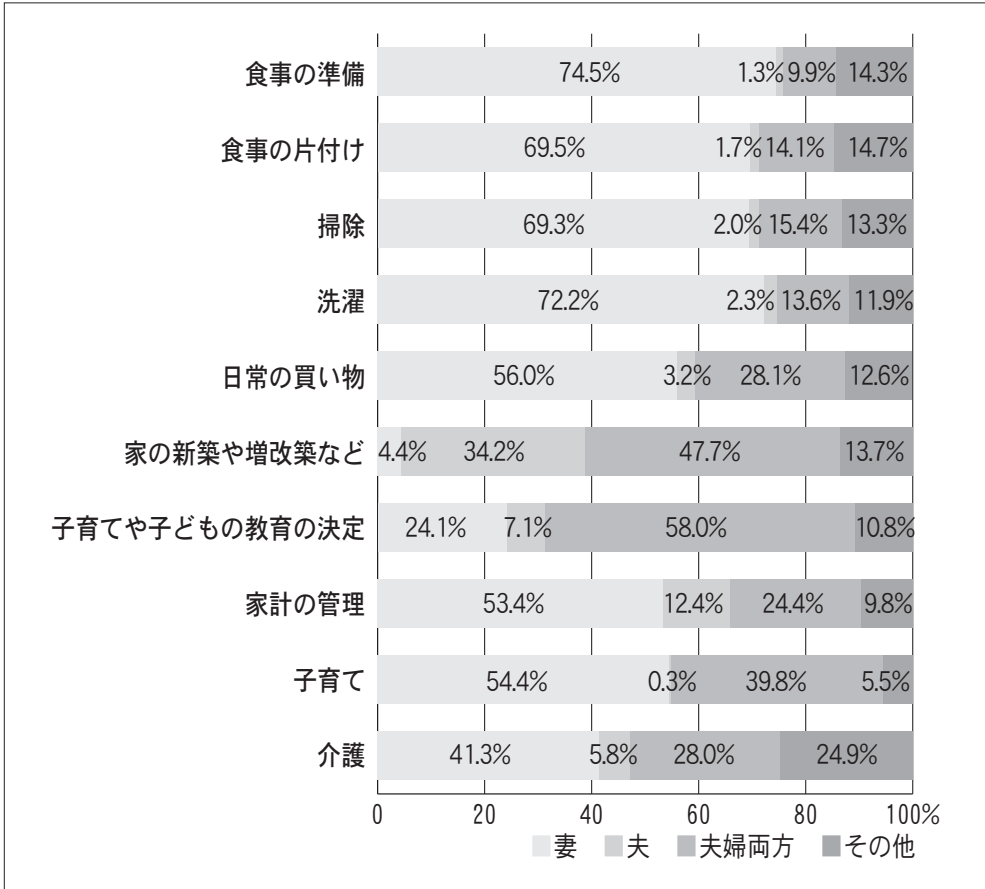
アンケートから見る現状

平成21年2月、市と岩手県立大学は共同で男女共同参画に関するアンケート調査を実施しました（対象Ⅱ市内在住の20歳から79歳までの男女3070人。有効回収数1388。回収率45・2％）。その結果、次のような課題が見えてきました。

家事は「妻」がやるものに

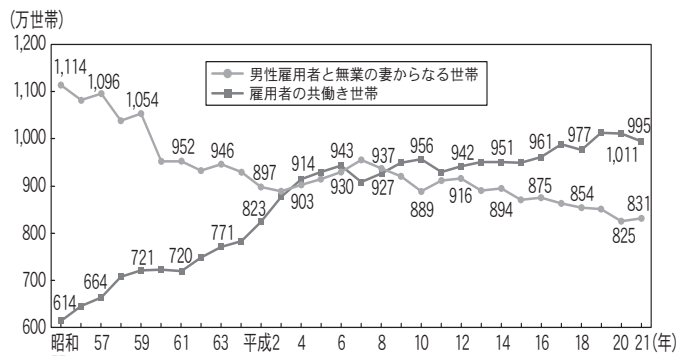
「家庭での役割」について聞いたところ、「妻が行っている」割合は表1のとおり、食事の準備（74・5％）、食事の片付け（69・5％）、掃除（69・3％）、洗濯（72・2％）、買い物（56・0％）と家事のほとんどを女性が担当しています。また、子育てや介護でも「妻が

表1 家庭での役割



【資料】八幡平市男女共同参画に関するアンケート調査（平成21年2月実施）

表2 共働き世帯の推移



【資料】平成22年版男女共同参画白書

理想は「家事は協力して」

同アンケート調査では、「家事の役割分担について、どう思いますか」とも聞いています。「状況によつて判断する」が55・5％と最も高く、次いで「主に女性がして男性が少し手伝う程度が良い」が34・7％となっています。「すべて女性がしたほうがよい」は4・0％にとどまり、望ましいのは夫婦（家庭）で協力することであることがわかります。これは、育児や介護についても同じことがいえるのではないでしようか。

男女が共に支えあうまちを次世代へ

八幡平市男女共同参画ネットワーク会長

なか かる まい
中軽米こう子 新田

市が住みよいまちになるために互いを尊重し合い、「ここに住んでよかった」と思えるようなまちを次の世代に伝えたいですね。そのためには、男女共同参画も一つの考えとして重要だと思います。ネットワークとしても男女共同参画社会の実現へ積極的に活動していきたいです。

スキーインターハイの舞台へ

Vol. 2

来年2月6日から10日まで、県内の“スキ一の聖地”八幡平市で開催される第60回全国高等学校スキー大会。先月号から出場が期待される市内の選手を紹介しています。今回は盛岡南高校の選手です。

2年連続地元の大舞台 努力を重ね出場つかむ



2 月に、八幡平市で開催された全国中学校スキー大会で入賞が自信につながった川野さん、同大会に出場し、もともと早くなりたかった畑さん。共に上を目指すために、盛岡南高校に進学し、スキーを続ける決意をした。

高校生になり、大会で滑る距離が伸びた(男子⇨クラシカル5↓10^キ、フリー5↓15^キ、女子⇨クラシカル3↓5^キ、フリー3↓10^キ)だけで

はなく、中学校では冬場に特設だったスキー部の活動から、年間を通して高校の部活動に変わり、環境は、スキー中心の生活となった。

立花武良監督いわく「まだまだ筋力も技術も高校生のレベルに達してはいない」と言うものの、2人が持つ潜在能力の高さを感じている。

インターハイの目標は「何度も滑り、攻略してきたコース。県予選を通過し、クラシカル、フリーとも50

位以内を目指す」と川野さん。「出場し、自分の実力が全国でどの程度なのか試してみたい」と畑さん。スポーツの世界に学年は関係ない。2人ともクロスカントリースキーで大切なことは「最後まであきらめないこと」と語る。先輩たちと切磋琢磨し、夏場のつらい練習を乗り越えてシーズンを迎えたとき、その自信が花開くはず。2人の積み重ねた努力は決して裏切らない。

④ 畑 智佳 さん
はた・ちか 1年 畑

◎**profile**

中1からクロスカントリースキーを始める。昨シーズンは中3ながら国体に出場。好きな選手は福田修子。尊敬する人は両親。身長161㎝。血液型B型のみずがめ座。15歳。柏台小→松尾中卒

◎ 川野 創平 さん
かわの・そうへい 1年 豊畑

◎**profile**

小1からクロスカントリースキーを始める。昨シーズンは全中スキーラシカル8位ほか入賞。好きな選手は小林範仁。身長169㎝。血液型A型のおうし座。16歳。安代小→安代中卒

安比はホームゲレンデ 一つでも上の順位狙う



山崎野乃花 さん
やまざき・ののか 2年 安比

©*profile*

小1からアルペンスキーを始める。好きな選手は湯浅直樹、テッド・リグティ（アメリカ）。尊敬する人は新里尚子選手と田鎖みなみ選手。身長156センチ。血液型AB型のうお座。16歳。松野小→松尾中卒。

自宅が安比高原スキー場に近いことから、両親の勧めで小学校1年生からA P P I Jrに所属し、スキーを始めた山崎さん。アルペンスキーの魅力を「雪上を駆け抜けるスピード感と一瞬で決まる勝負に勝ったときの充実感」と語る。

シーズン終盤にかけて、体力が落ちてくると自分が思うような滑りができなくなることを知っているからこそ、現在は、シーズンを通して安定したパフォーマンスを持続させるために、好きな言葉「栄光に近道なし」のとおり、トレーニングに励む。

1年生だった昨シーズンは「何も考えずガムシヤラに」滑っていたが、今シーズンは「1年生にも先輩にも負けたくない」と闘志を燃やしている。地元でのインターハイに出場できるチャンスもめつたにないが、アルペン競技の会場は安比高原スキー場というところもあり「小さいころから滑ってきたホームグラウンド。県予選からいいタイムをたたき出し、インターハイでは一つでも上の順位を狙いたい。目標は30番台」と語る山崎さん。地元の利を最大限に生かし、全国の舞台に挑む。

地元の応援の恩返しは 自分の滑りを見せる事



中軽米奈実 さん
なかかるまい・なみ 2年 柏台三丁目

©*profile*

中1からクロスカントリースキーを始める。好きな選手は福田修子。尊敬する人は今まで指導してくれた先生や先輩たち。身長153^{センチ}。血液型A型のおひつじ座。16歳。柏台小→松尾中卒。

高

校に入学してから、バスケットボールにするかスキーを続けるか悩んでいた。しかし、スキー部の仲間の姿を見て、スキーを選択した。それは、努力した分だけ結果が付いてくるスキーの楽しさ、人間として多くのことを学び、成長させてくれるスキーの魅力を誰よりも知っているからではないだろうか。

どんなレースでもペースが崩れず、あきらめない粘り強さが持ち味。立花武良監督も彼女の粘り強さには太鼓判を押すが、本人は「スピードに乗り、コースの位置取りをすること」を課題に挙げる。今の時期は、スキーに乗って練習することができないが、練習から集中してトレーニングをこなす努力を怠らない。

前回のインターハイにも出場したが、「納得のいく滑りができなかった」と振り返る。地元のインターハイに気持ちが高ぶる中軽米さんは「応援してくれる人たちへ恩返しをするつもりで自分の滑りを見せたい」と語る。慣れ親しんだ田山のクロスカントリーコースで昨年の借りを返すときが来た。

小田 ノブさん お2人そろって満100歳に 吉田民一郎さん



よし たみ いち ろう
吉田民一郎さん

お だ ノブさん
小田 ノブさん

小田ノブさん(下町三区)は5月25日、吉田民一郎さん(北寄木)は5月30日、めでたく100歳の誕生日を迎えました。25日は入所している特別養護老人ホームむらさき苑(工藤幸栄施設長)で5人の家族や100歳を超える3人の入所者、小野寺清美市福祉部長らが、30日は田村正彦市長らが自宅を訪れ、長寿祝い金や花束などを贈って長寿を祝いました。

ノブさんは、市内で新聞販売業や書店を営み生計を立てていました。日本舞踊を教え、90歳ごろまで踊っていました。ひ孫の鈴木奏美さんは「昔見せてくれた日本舞踊は覚えていて。110歳を目指して長生きしてほしい」と長寿を願っていました。民一郎さんは、食べ物の好き嫌いもなく、現在は週1回の楽しみであるデイサービスを利用しながら家族と過ごしています。農業にこそし、85歳すぎまで耕運機を運転していました。65歳から70歳ごろまでの間に3回の大手術を乗り越えたこともあり、娘のハツさんは「皆さんのおかげで自宅で100歳を迎えられた」と感謝していました。

2人が100歳を迎えたことで、6月25日現在、八幡平市在住の100歳以上の長寿者は18人になりました。



◎PROFILE
吉田民一郎さん
明治43年5月30日、旧松尾村生まれ。20歳ごろに故・高橋トメさんと結婚。子ども2人、孫4人、ひ孫1人に恵まれた。現在は、娘のハツさんと3人暮らし。

◎PROFILE
小田ノブさん
明治43年5月25日、八戸市生まれ。25歳ごろに故・小田定八さんと結婚。子ども4人、孫6人、ひ孫8人に恵まれた。現在は、特別養護老人ホームむらさき苑に入所している。



ちよつぱり勇氣を出してみませんか

素敵な出会いを演出します

市は、独身男女が素敵な出会いをするきっかけとなることを願い、市後継者育成支援推進協議会を通じて、さまざまな事業を行っています。ここでは、これらの事業について紹介します。

真夏の安比高原でバーベキューと…

次のとおり出会い支援イベントを行います。

独身男女であれば、どなたでも参加できます。お気軽にご参加ください。

■期日 7月25日(日)

■時間 午前10時から午後3時半まで

■場所 安比高原

■内容 安比ゴンドラ遊覧、ブライダルフェア見学、バーベキュー(1ソフトドリンク付き)、フリータイム(パークゴルフ、まきばの釣堀から当日選択)

■対象 独身男女

■定員 男女ともに先着20人(女性参加者は女性の同伴者との参加が可能。同伴者は未婚・既婚を問いません)

■参加費 男女とも2000円(同伴者は1000円)

■申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、申し込みください。

■申込期限 7月16日(金)必着

出会い会員を募集 無料登録で情報を

花婿・花嫁出会い会員を募集しています。会員になつて、素敵な人生の一步を踏み出してみませんか。登録は無料。

■内容 出会いイベントなどの情報をお届けします。

■入会資格 市民または市内で働く独身男女(年齢は問いません)

■出会い支援イベント、出会い会員登録とも詳しくは、市後継者育成支援推進協議会(市福祉部地域福祉課内、

☎・内線1165)まで。

一緒に作る市の未来 市職員を募集



平成23年度採用予定の市職員採用試験を次のとおり行います。

■職種・採用予定人数および受験資格

▼一般事務職員(若干名) 高校卒業以上(平成23年3月卒業見込みを含む)で、昭和59年4月2日以降生まれの人

■保健師(1人) 保健師の免許取得者で、昭和55年4月2日以降に生まれた人

▼社会福祉士(1人) 社会福祉士資格を有し、昭和55年4月2日以降に生まれた人

■1次試験日 9月19日(日)

■試験会場 岩手県立大学

■申込方法 受験申込書(市企画総務部総務課、松尾・安代の各総合支所地域振興課にありま

す)に必要事項を記入の上、申し込みください。

郵送で資料を請求する場合は、90円切手を張った返信用封筒

(「採用試験案内請求」と朱書きし、あて先・郵便番号を明記したもの)を同封して、市企画

総務部総務課(〒028-7192)へ請求してください。

■申込期間 7月5日(月)から8月16日(月)まで(郵送の場合、8月14日(土)までの消印有効)

詳しくは、市企画総務部総務課(☎・内線1211)まで。

夢に向かって全力尽くす

第58回岩手地区中学校総合体育大会は6月19日から22日まで、各会場で行われました。市内からは5つの中学校が10競技に出場。7月15日から19日まで開催される県中学校総合体育大会出場をかけた、熱戦を繰り広げました。



1 ソフトテニス女子団体で優勝した松尾。古川里緒菜(写真)・乙部理子組は個人も3位で県大会出場を決める
2 降りしきる雨の中行われたサッカー西根対松尾
3 野球で3位に入賞したが惜しくも県大会に出場ならなかった西根第一
4 柔道女子個人70kg超級で優勝した遠藤真那美選手(西根第一)
5 男子バスケットボールで1回戦で顔を合わせた西根対西根第一
6 剣道男子で市内から唯一出場した西根

各競技で上位入賞を果たし、県大会出場を決めた団体、個人は次のとおり。

■バスケットボール
【男子】②西根第一
【男子】④西根
【女子】②西根
■ソフトテニス
【男子】▽団体①西根
▽個人②日戸祐介・武田圭介(西根、ともに3年)③田村克樹・遠藤優貴(西根、ともに3年)
【女子】▽団体①松尾②西根第一
▽個人②遠藤葵・小野寺ひとみ(西根第一、ともに3年)
③古川里緒菜・乙部理子(松尾、ともに3年)
■卓球
【男子】▽団体②安代
▽個人⑦佐々木公太(安代3年)
■柔道
【男子】▽個人81kg級②高橋幸輝(西根第一1年)
【女子】▽団体①西根第一
▽個人48kg級①高橋裕佳(西根第一3年)▽同52kg級③伊藤弘華(西根第一3年)
④中村有沙(西根第一2年)▽同70kg超級①遠藤真那美(西根第一3年)②田村仁美(西根第一2年)

市内出身選手・県の頂点に

第62回県高等学校総合体育大会は、5月25日から6月20日まで県内各会場で32競技が行われ、平館高校(中川玲子校長、生徒312人)が相撲団体で5連覇を達成するなど、市内関係選手が各競技で県内の頂点に立つ活躍を見せました。



5年連続33回目の優勝を果たした平館高校相撲部の皆さん。前列左から泡瀬好晃選手(3年)、高橋連選手(3年)、小野寺慧斗選手(3年)。後列左から里館健主将(3年)藤川梓之介選手(2年)、吉川広大選手(1年)



レスリング個人で優勝を果たした富士原祐貴選手(写真左)と藤本裕選手(ともに盛岡工業3年、安代中卒)

■相撲 ◆団体①平館 ◆個人
▽選手権①里館健(平館3年)
▽80kg以上100kg未満級①藤川梓之介(平館2年)▽100kg以上級①里館健
■バスケットボール
【男子】①盛岡市立Ⅱ晴山ケビン(3年、西根第一中卒)ほか
■バレーボール
【女子】①盛岡女子Ⅱ田村真綾(3年、松尾中卒)ほか
■レスリング
【男子フリースタイル】◆個人▽74kg級①富士原祐貴(盛岡工業3年、安代中卒)▽96kg級①藤本裕(盛岡工業3年、

安代中卒)
■サッカー
【男子】①盛岡商業Ⅱ畠山和弥(1年、西根中卒)ほか
■カヌー
【男子】▽カナディアンシングル①盛内直幸(不来方3年、安代中卒)▽同ペア①盛内直幸ほか1人▽同フォア①盛内直幸ほか3人
1年生ながら3試合に出場した畠山和弥選手